



# 原発をなくす全国連絡会 ニュース

〒113-8465 東京都文京区湯島 2-4-4 平和と労働センター7F

<https://www.no-genpatu.jp> mail: [no-nukes@min-iren.gr.jp](mailto:no-nukes@min-iren.gr.jp)



## 3.11 から10年！原発ゼロ基本法制定を！

### 4.4 銀座パレード開催！

新型コロナの緊急事態宣言の延長などにより延期していた、「3.11 から10年！原発ゼロ基本法制定を！銀座パレード」を4月4日に満を持して開催しました。日比谷公園の中幸門に集出し出発式を行い主催者挨拶で全日本民医連の岸本啓介事務局長は「今も事故の処理は進まず、汚染水は溜まり続けている」「いまだに何万者もの人々が故郷に帰れていない。」「原発事故は絶対に起こしてはいけない。そのためには原発をゼロにするしかない。これが福島第一原発事故の教訓だ。」「福島の実の復興と原発ゼロをめざし、秋までに行われる衆議院議員総選挙で原発ゼロ基本を支持する議員を多数国会に送り出しましょう。」と述べました。

日本共産党の笠井亮衆議院議員は「原発事故は一度過酷事故が起きれば取り返しがつかない」「原発と人類は共存できない」「この10年間毎週金曜日の官邸前行動や全国各地で再稼働反対、原発廃炉の世論が大きく広がった」「政権交代で原発ゼロの日本を実現しましょう」と激励しました。

ふくしま復興共同センターの代表委員である斎藤富春さんよりメッセージをいただき新日本婦人の会の河村玲子さんが読み上げました。メッセージは裏面に全文ご紹介します。

パレードは天候にも恵まれ、宣伝カーからのコールに合わせ「原発ゼロの政府を」「フクシマ切り捨て許さない」のプラカードを掲げ鈴を鳴らし銀座でアピールをしました。



## 汚染水海洋放出反対！緊急官邸前行動

### 4月12日(月)12:15~13:00

#### 4・4 銀座パレードへのメッセージ

2021年4月4日

ふくしま復興共同センター

代表委員 齋藤富春(さいとうよしはる)

東日本大震災と福島原発事故から10年の節目を迎えました。何が問われているのか、被災者支援と復興、そして原発ゼロの運動に関わってきた者として3点強調したいと思いません。

1つは、「風化」の問題です。当時小学1年生は高校生に、小学4年生は20歳となる年月が経過しました。それでも避難を続ける福島県民は3万5千人を超え、原発事故関連死は今も増え続けています。

誰でも、時間の経過とともに記憶が薄れていくということはあります。ですから、メモリアルがあり、「あの日」を振り、犠牲者を追悼し教訓を語り継ぎ、元の生活を取りもどす決意を固め合うのです。

しかし、福島を切り捨てて、国・東京電力の責任や原発事故の本質をあいまいにする「風化」は許す訳には行きません。

2つめは、復興の問題です。10年が経過し、被災地は一見、きれいに整備され、立派な道路や建物が出来ました。しかし、被災者本位の復興になっているのかということです。

実は、福島県は10年前に「復興ビジョン」を策定しています。その基本理念を「原子力に依存しない、安全・安心で持続的に発展可能な社会づくり」とした上で、実現すべき事業として①「日本一安心して子どもを生み、育てやすい環境の整備」②「全国に誇れるような健康長寿の県」③「再生可能エネルギーの飛躍的推進による新たな社会づくり」を掲げました。

しかし、福島では、復興と言えば惨事便乗・大企業呼び込み型の「イノベーション・コースト構想」一色です。本来の「復興ビジョン」を歪める県民置き去りの巨大開発を見直し、県民のくらしと福祉最優先の復興が求められています。

3つめは、原発ゼロの問題です。今、こともあろうに「脱炭素」を口実に、事故も被害もなかったかのように、原発を位置づける動きがあります。このような、あくまでも原発にしがみつく勢力を許す訳には行きません。

原発ゼロの実現、そして被災者本位の復興をはじめ県民要求を実現する道は、市民と野党の共闘で「原発ゼロ基本法」を早期に成立させることにあります。国のエネルギー政策を「原発ゼロ・再生可能エネルギー」に転換すれば、「福島切り捨て」の必要性はなくなり、県民の被害や困難、願いと向き合う政治への展望が切り開かれます。

そのために、皆さんと共に「原発ゼロ基本法」の制定を求める請願署名を大きく広げる決意を申し上げ、福島からのメッセージとします。共に奮闘しましょう。